

■公共図書館での実践事例

学校図書館での「読みが苦手な子ども」への支援

岡山県瀬戸内市立図書館
嶋田 学

学習会を重ねて

瀬戸内市では、市内の3中学校と9小学校に、10名の学校司書が配置されています。2011年度より、学校司書の研修を主眼に、先生方の学校図書館活用教育への理解を深めていただく目的で、「学校図書館と子どもたちの学び」という学習会を毎年続けています。

これまで、島根県東出雲町立揖屋小学校（2011年当時）の門脇司書、樋野司書教諭や、図書館情報大学名誉教授の竹内愨先生、帝京大学の鎌田和宏先生、山形県鶴岡市の小学校で長らく学校司書を勤められた五十嵐絹子さんなど、学校図書館の実務家、研究者の方々から貴重なお話を伺ってきました。



立教大学非常勤講師の中山美由紀先生をお迎えして開催した「瀬戸内市 学校図書館と子どもたちの学び」



中山先生を囲んで、瀬戸内市の学校司書を中心に座談会を開催。読むことが困難な子どもたちに向けたケアについて議論

学校司書のみなさんと共同で 実践研究

学校司書のみなさんも、それぞれ関心のあるテーマについて学びを深めるなかで、部会を作って共同で実践研究を進めようということになり、「読書支援」、「学習支援」、「環境整備」（配架研究）という3つのグループに分かれて研究と実践を積み重ねるようになりました。

そうした活動を毎年の「学校図書館と子どもたちの学び」で発表し、自分たちの仕事を伝える取り組みも行ってきたところです。

さて、そうした活動のなかで、「読書支援」のグループのある司書が、クラスのなかでなかなか読書に馴染めない子ども、そして、支援学級の子もたちが、読書に親しめるようにするには、どのような本を手渡させばいいか、というテーマに行き当たりました。

10人の学校司書が、それぞれの経験のなかから、発達段階やそれぞれの子どものこだわり、特徴に合わせて、こんな本はどうだろうというような意見交換がはじまりました。

興味の幅が狭い子ども、そもそも文字を追う事が苦手な子ども、おはなしを聞くのは好きだけれど、自分からは本に向かおうとしない子どもなど、事情はそれぞれ多様でした。

そんななか、岡山県立図書館で障

害者サービスの研修会があり、そこで「マルチメディアDAISY」に関する講座がありました。発達障害、学習障害の子どもたちのなかに、文字を読み取ることがさまざまな理由で難しい実態や、そのために必要なケアについて具体的に教えていただく機会を得ました。

とりわけ、「マルチメディアDAISY」の実演は、きわめて新鮮で、目からは文字と絵で、そして音声でも本を読むことを助けてくれる優れたメディアだと実感しました。その後、伊藤忠記念財団電子図書普及事業部の矢部剛さんからのご案内で、「わいわい文庫」の「マルチメディアDAISY図書」の寄贈事業を知りました。すぐに応募したところ、書誌事項と表紙がカラー印刷されたわかりやすいインデックス付きの「マルチメディアDAISY図書」が送られてきました。

早速、インデックスを各学校の司書に送付するとともに、各校に各年版の「マルチメディアDAISY図書」を1枚ずつ、サンプルとして送り、子どもたちにどのように提供することができるか、校内で調整を図るべく、検討を始めてもらいました。図書館で「マルチメディアDAISY図書」用に使用できるパソコンが目下のところないため、こうした機器の調達も課題になっていますが、例えば、公共図書館にあるiPadに、「マルチメ

ディアDAISY図書」をダウンロードして、これを各校に貸し出して利用してもらうという方法もあるのではないかと検討をしています。

そして、まずは瀬戸内市民図書館もみわ広場で、「マルチメディアDAISY図書」の存在を知ってもらい、必要な方には貸出を進めていくことも、同時に始めていきたいと考えています。

まだまだ実践は、これからということですが、学校図書館での活用や公

共図書館での啓発、貸出に向けて、一歩ずつ進めていきたいと考えています。

全国の図書館のみなさまにも、ぜひ、「マルチメディアDAISY図書」の寄贈事業に参加いただき、各図書館で、また学校図書館との連携によって、読むことが苦手な子どもたちに、本の楽しさ、本の世界の豊かさを感じてもらえるよう、ともに実践を進めていければと思います。

